

# 住宅用火災警報器の寿命は約 10 年です。

平成 23 年に全ての住宅へ『住宅用火災警報器』の設置が義務化されてから、早いもので 10 年が経過しました。

これまでの 10 年間、日夜あなたと家族の安全を見守り続けてきた住宅用火災警報器もいよいよ寿命を迎えているかもしれません。

この先の 10 年の安心を確保するため、早目に新しい住宅用火災警報器へ交換することをおすすめいたします。

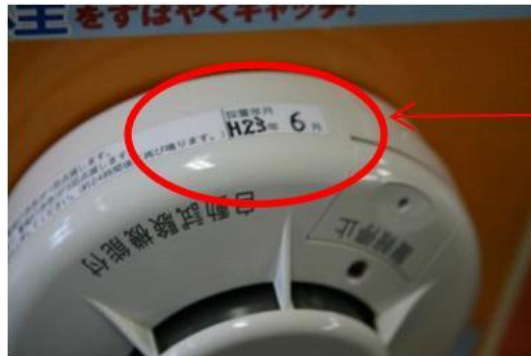


## まずは次の 2 点をチェック！



※現在の機能が正常であるか点検ボタンやひもを引くなどして確かめます。

点検ボタンを押す  
又は  
ひもを引く



設置年月日  
又は  
有効期限

※設置年月日又は有効期限により、経過年数を確認します。

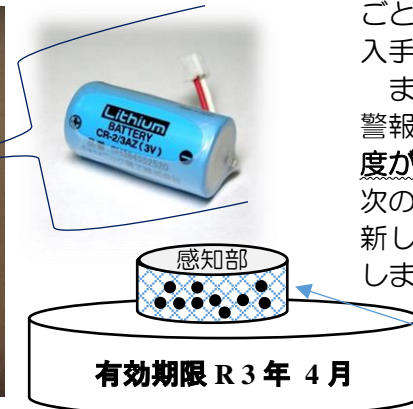
設置環境によっては、10 年以内でも電池が消耗している場合があります。こまめに点検を行いましょう。

点検の結果、異常と判断できる場合や全く反応しない場合には、すぐに交換してください。

異常な場合  
・無音（シーン…）  
・警告音（ピー）  
・「電池を交換してください。」（音声）  
など  
※取扱い説明書で確認を！

設置から 10 年が経過していた場合には、点検で異常が認められなくても、交換することをおすすめします。

## 「電池交換」と「本体交換」どちらがおすすめ？



住宅用火災警報器の電池には、専用のリチウム電池が使われており、メーカーごとに形状が異なっていることもあり、入手が困難です。

また、長年設置されていた住宅用火災警報器は、感知部に目詰まりが起き、**感度が低下している**場合がありますので、次の 10 年を安心して過ごすためにも新しいものへの**お取り替えをおすすめ**します。

ホコリや油などによる目詰まり

住宅用火災警報器は 10 年経過か異常が出たら  
新しいものに取替えましょう！